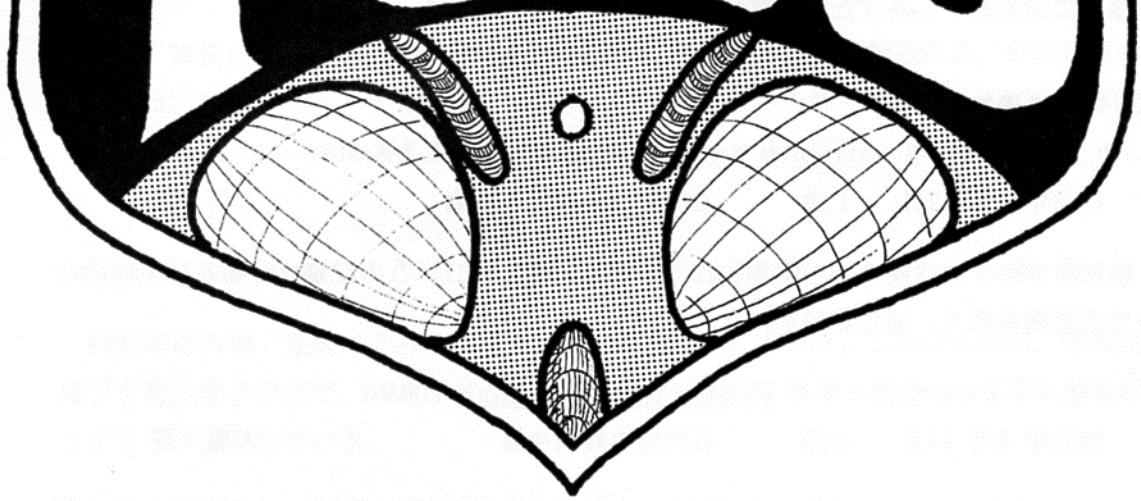
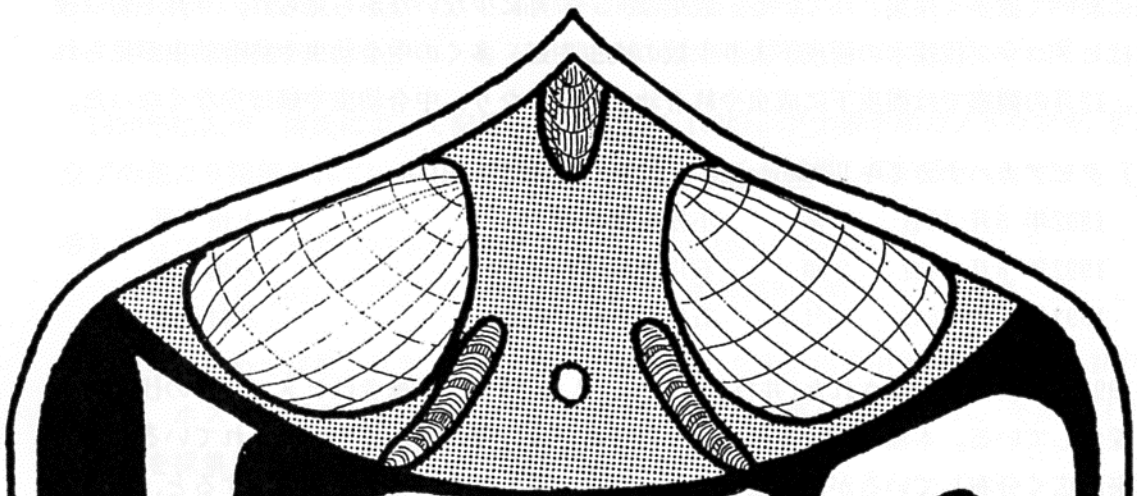
No. 114 June 1995 百万石蝶談会

TOBU





TOBU

石川県のカミキリムシ科（最終回）

井　村　正　行

1985年から1994年にかけて発表したリストについて、種の追加、削除、修正等を行ない、本稿で「石川県のカミキリムシ科」を締めくくりたい。

このリストを編集するにあたり、多岐に渡って皆様方の多大なる御協力を得ました。中でも、入場　登、野中　勝、高羽正治の各氏には大変お世話になりました。最終回に臨み皆様方にお礼を申しあげたい。誠にありがとうございました。

《リストに追加する種》

1）カラマツカミキリ Tetropium morishimaorum KUSAMA et TAKAKUWA

1988年 6月 12日	1頭	石川郡白峰村百万貫岩	入場　登

植林カラマツの伐採木から採集されている（入場,1990）。この記録は分布及び生態的な点で大変興味深く、追加記録が待たれる。

2）ニセハイイロハナカミキリ Rhagium pseudojaponicum PODANY

1992年 6月 14日	2頭	石川郡白峰村牛首	入場　登

1992年に初めて、ヒメコマツの伐採木から記録された(入場,1993a)。本種はその後、同地に於いて数多く採集されている。成虫は、5～7月に少ないながら見られ、9月下旬以後にはヒメコマツ伐採木の樹皮下より少数の成虫や蛹、多くの中令幼虫や終令幼虫が見られた。12月の観察では樹皮下に成虫や終令幼虫が多くなり、中令幼虫や蛹は少なくなった。

3）クビアカハナカミキリ Gaurotes atripennis MATSUSHITA

1992年 5月 10日	1♀	小松市蓮代寺	上田　昇
1992年 6月 14日	2頭	石川郡白峰村牛首	入場　登
1992年 7月 16日	1♂1♀	石川郡白峰村白峰	井村正行

1992年に初めて記録された(井村・他,1993、入場,1993c)。筆者はヒメコマツの伐採木から採集している。本種は小松市の低山と白峰村という離れた地点で記録されているので、本来は広く分布しているが個体数は少ないものと思われる。発生期を推測すると、低山で5月、山地で6月～7月と思われる。

4）アサマヒメハナカミキリ Pidonia takechii KUBOKI

1961年 7月 20日	1♀	石川郡尾口村岩間	富沢　章
1989年 6月 30日	1♀	石川郡白峰村白山釈迦林道	沢田　博
1991年 8月 10日	♂♀多数	石川郡白峰村白山釈迦林道上部	沢田　博

最初に発表されたのは富沢 章氏の記録だった(窪木,1990)。ブナ帯からダケカンバ帯に分布し、オニシモツケに多く、日のあたっているシシウド等にも見られる。分布の上限は確認していないが、高地には少ないようだ。6～8月に普通にみられる(以上、澤田,1993)。

5) ツマグロヒメハナカミキリ Pidonia maculithorax PIC

1989年 6月 18日	1♀	石川郡白峰村白山釈迦林道	沢田 博
1989年 7月 31日	♂♀多数	石川郡白峰村白山釈迦林道	沢田 博

沢田 博氏によって分布が確認された(澤田 博,1993)。白山釈迦林道、砂防新道のブナ帯では、アサマヒメハナカミキリと混じってオニシモツケ等で観察されるが、個体数はアサマヒメハナカミキリほど多くない。発生期は6～8月。(以上、澤田,1993)

6) イガブチハナカミキリ Corymbia igai TAMANUKI

1993年 8月 13日	1♂2♀	石川郡尾口村白山新岩間	入場 登

1993年に入場 登氏によって初めて記録された(入場,1993b)。これによれば、標高的にはブナ帯上部クラスで、コメツガの新しい倒木根に産卵に来た1♀と、ノリウツギの花で1♂1♀が得られている。

7) コウヤホソハナカミキリ Strangalia koyaensis MATSUSHITA

1990年 7月 23日	4♂	石川郡白峰村大杉谷林道	沢田 博
1990年 7月 28日	2♂	石川郡白峰村大杉谷林道	沢田 博

1990年に沢田 博氏によって記録された(澤田,1990)。ブナ帯下部のノリウツギ、リョウブの花より採集されている。この年同地で入場 登氏も採集している。

8) クロツヤヒゲナガコバネカミキリ Glaphyra hattorii OHBAYASHI

1987年 4月 20日	13♂6♀採集多数目撃	能美郡川北町	入場 登

1987年に初めて採集された(入場,1989)。採集された手取川の中下流域は筆者も訪れてみたが、ホストのグミも多く、それらの枯枝には本種の食痕も多数見られ、冬期に材中にいた蛹を採集したところ、春には多数が羽脱した。

9) ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ Glaphyra nitidus OBIKA

1987年4月25~28日	9♂12♀羽脱	金沢市小原	井村正行
1990年 4月 1日	1♂材内成虫	金沢市寺津	井村正行
1990年 4月 22日	1♂1♀材内成虫	石川郡鳥越村河原山	井村正行

樹種はいずれもエゾエノキ。井村(1987)で報告したが、その後金沢市の医王山や犀川上流、川北町の手取川中流域でも多数の棲息を確認している(井村,1990)。

10) ヨコヤマトラカミキリ Epiclytus yokoyamai KANO

1990年 4月 19日	1♀羽脱	金沢市小原	井村正行
1992年 6月 13日	1頭	石川郡尾口村白抜山	入場　登

井村(1990)で報告したが、その後２例追加されている(入場　登,1993c)。

11) ヒゲナガヒメルリカミキリ Praolia citrinipes BATES

1994年6月 6日～7月 4日	３頭	石川郡吉野谷村佐良	江崎功二郎・高田兼太
1994年6月 6日～7月 4日	６頭	石川郡尾口村女原	江崎功二郎・高田兼太
1994年7月19日～7月26日	１頭	石川郡白峰村大杉谷	江崎功二郎・高田兼太

江崎功二郎・高田兼太の両氏によって初記録がなされた(江崎・高田,1994)。いずれの記録も誘引トラップによる。

《リストから削除する種》

1）シラオビトラカミキリ Clytus raddensis PIC

高羽(1985)により記録されたが、標本を確認したところ C.melaenus （シラケトラカミキリ）の間違いだったので、記録を削除する。

《データが確認できた種》

1）オオクロカミキリ Megasemum quadricostulatum KRAATZ

1983年 8月　4日	１♀	石川郡白峰村六万山	富沢　章
1992年 8月 15日	１頭	石川郡白峰村牛首	入場　登

富沢　章氏はライトトラップで、入場　登氏はヒメコマツの伐採地で採集している(入場,1993c)。

2）キモンハナカミキリ Leptura duodecimguttata FABRICIUS

1961年 6月 11日	1♀	石川郡尾口村深瀬	林　靖彦

標本とデータを確認した。本県ではこの記録1例のみと思われ、非常に稀。

3）オオヨスジハナカミキリ Macroleptura regalis BATES

1990年 8月　5日	1♀	石川郡白峰村大杉谷林道	上田　昇
1991年 7月 22日	1♂	能美郡辰口町長滝	江口元章
1991年 7月 23日	2♀	能美郡辰口町長滝	江口元章

井村(1992)に発表済み。他に、江崎功二郎氏によれば鶴来町の石川県林業試験場で数例確認され、ホストとしてアカマツも確認していると聞く。これらのことから本県では7～8月に低山～ブナ帯で発生し、ノリウツギ、リョウブの花や針葉樹の伐採木に集まると思われる。属名は変更されている(Leptura → Macroleptura)。

4）サドチビアメイロカミキリ Obrium japonicum PIC

1992年 5月 5日	10頭(羽脱)	石川郡白峰村市ノ瀬	入場 登

入場 登氏は、ヤチダモの枯枝より羽脱させてい入る（入場,1993a)。

5）コトラカミキリ Plagionotus pulcher BLESSIG

1944年 5月 25日	8頭	石川郡白峰村白峰	水野辰司
1944年 5月 25日	2頭	石川郡白峰村白峰	中谷和夫
1948年 6月 5日	1頭	石川郡白峰村風嵐谷	水野辰司

標本は確認出来なかったが、過去の記録を高羽正治氏より伺った。高羽氏に当時の様子を伺ったところ、1944年5月25日は非常に個体が多かったらしい。

6）ホソヒゲケブカカミキリ Eupogoniopsis tenuicornis BATES

1990年 7月 16日	1♂1♀	金沢市医王山重山林道	澤田 博
1993年 6月 20日	2頭(羽脱)	石川郡白峰村百合谷	井村正行
1994年 7月 10日	1♂	石川郡尾口村瀬女高原	井村正行
1994年 7月 16日	1頭	石川郡尾口村白山楽々新道	入場 登
1994年 7月 24日	1頭	石川郡尾口村白山楽々新道	入場 登

データは（澤田,1991)、(高田・他,1994)、(入場,1994)から引用した。白峰村百合谷では、薮の中の湿地にあるヤチダモの新しい枯枝から採集している。

《その他》

1）ブービエヒメハナカミキリ Pidonia bouvieri PIC（カクムネヒメハナカミキリ）

1969年 7月 21日	1♀	石川郡白峰村白山別当出合	沢田 博
1991年 8月 11日	♂♀多数	石川郡白峰村白山釈迦林道上部	澤田 博

井村（1986a）における本種のデータには混乱があったので削除する。本種は従来カクムネヒメハナカミキリと呼ばれてきたが、近年、種の細分化が行われ、澤田（1993）に詳しく書かれているので引用する。白山のダケカンバ帯以上に生息し、オニシモツケ、シモツケソウに普通に見られる。7月～8月に発生。(以上、澤田,1993)

2）ミセンヒメハナカミキリ Pidonia misenia S.et A.SAITO
（ムネモンヒメハナカミキリ P.maculithorax PIC ）

1983年 6月 12日	1♀	石川郡尾口村白山丸石谷	野中　勝

この種も近年整理され、県内のものは澤田(1993)によってまとめられた。稀な種で、筆者が確認できた記録はこれ１例だけだった。野中　勝氏によればカエデの花のスウィーピングによって得られたとの事である。

3）ヤツボシハナカミキリ Leptura arcuata mimica BATES

本種は現在、ヤツボシハナカミキリ L.mimica、ツマグロハナカミキリ L.modicenotata の２種に分ける説と、１種であるという説があり、今後の研究結果をまちたい。ちなみに本県には両タイプとも見られ、参考までに記録しておきたい。

（ヤツボシハナカミキリ L.mimica BATES）

1991年 8月 11日	1♀	石川郡白峰村白山釈迦林道	上田　昇
1992年 7月 5日	1♀	石川郡白峰村白山釈迦林道	上田　昇

本種のタイプは、白山のブナ帯～亜高山帯で7～8月に見られる。各種の花に集まるが、やや少ない。上翅のヤツボシの斑紋がはっきりと現れ、黒色と黄色がはっきり分かれる。

（ツマグロハナカミキリ L.modicenotata PIC）

1979年 6月 28日	1♀	加賀市吉崎	井村正行
1981年 7月 5日	1♀	石川郡白峰村大杉谷林道	井村正行
1992年 7月 5日	3♂4♀	石川郡白峰村白山釈迦林道	上田　昇

本種のタイプは、平地～亜高山帯まで広く分布し、4～8月に標高を追って出現する。各種の花や広葉樹の伐採木に集まり、最も普通。確認ホストは、ブナ科やカバノキ科。

《リストは２６６種》

リスト（井村,1994)の最後は、「256.ホソリンゴカミキリ」で終り、石川県産を256種として発表した。ここでリストの番号に混乱があったので訂正したい。リストの71番が重複し（井村,1986b）、99番が抜けている（井村,1986c)。種類数に変更は無いが、71番から98番については１番づつ繰り下げてもらいたい。これに、今回の11種を加え１種を削除すると、県内産は266種となる。最近、トドマツカミキリ（Tetropium castaneum）やフトキクスイモドキカミキリ(Asaperda silvicultrix）の情報が入ったり、種の分割統合の話があったりして、今にも数種の増減が考えられるが、現時点では石川県産カミキリムシ科リストを２６６種として締めくくりたい。

《参考文献》

江崎功二郎・高田兼太,1994.ヒゲナガヒメルリカミキリの石川県初採集記録.翔(110):2.
井村正行,1986a.石川県のカミキリムシ科(その２).翔(56):6-10.
井村正行,1986b.石川県のカミキリムシ科(その４).翔(59):4-6.
井村正行,1986c.石川県のカミキリムシ科(その５).翔(60):3-5.
井村正行,1987.ホソツヤヒゲナガコバネカミキリを採集.翔(65):13.
井村正行,1990.石川県産のカミキリ２種の記録報告.翔(84):1.
井村正行,1992.カミキリムシ３種の採集記録.翔(94):5.
井村正行・他,1993.本県産カミキリムシ科３種の記録.翔(100):29.
井村正行,1994.石川県産のカミキリムシ科(その１５).翔(108):9-11.
窪木幹夫,1990.New Records of Pidonia takechii (Coleoptera Cerambycidae) from the Chubu District,Central Japan Elytra 18(1):136.
入場　登,1989.石川県における興味深いカミキリ数種の観察.とっくりばち(55):7-8.
入場　登,1990.石川県産甲虫６種の観察.とっくりばち(56):4-5.
入場　登,1993a.石川県産甲虫の記録.アカハネムシ(2):1-6.
入場　登,1993b.白山岩間にてイガブチヒメハナカミキリ採集.アカハネムシ(3):3.
入場　登,1993c.石川県産の興味深いカミキリムシの記録.アカハネムシ(3):4-5.
入場　登,1994.ホソヒゲケブカカミキリの白山新岩間楽々新道での観察.アカハネムシ(11):5-6.
澤田　博,1990.石川県白峰村大杉谷林道で採集したカミキリについて.翔(86):2.
澤田　博,1991.金沢市医王山でホソヒゲケブカカミキリを採集.翔(88):7.
澤田　博,1993.石川県のカクムネヒメハナカミキリ種群について.翔(100):18-22.
高羽正治・他,1985.甲虫類雑記(Ⅴ).とっくりばち(50):11.
高田兼太・他,1994.瀬名高原のカミキリムシ.翔(109):3.

《いむら まさゆき　〒920-01 金沢市湊２－１１６－７０》

「石川県のカミキリムシ科」掲載号

その１：翔(50):10-12.	その６：翔(61): 7- 9.	その11：翔(99): 5- 6.
その２：翔(56): 6-10.	その７：翔(65):10-13.	その12：翔(101): 7- 8.
その３：翔(58): 6- 9.	その８：翔(93): 5- 7.	その13：翔(105): 5- 6.
その４：翔(59): 4- 6.	その９：翔(95): 7- 9.	その14：翔(107): 5- 8.
その５：翔(60): 3- 5.	その10：翔(96): 2- 4.	その15：翔(108): 9-11.

海岸地域に分布するミヤマチャバネセセリの下顎長

松　井　正　人

《はじめに》

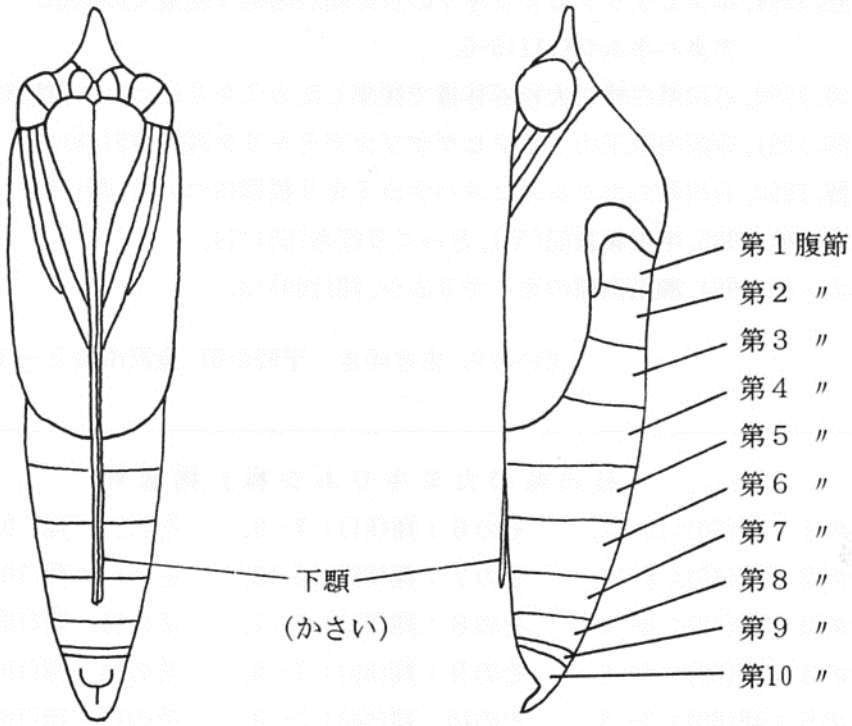
ミヤマチャバネセセリは本州、四国、九州に広く分布するが、いずれの地においても多くない。垂直分布は海岸の０ｍから２０００ｍに高地に及び、石川県においても海岸部の０ｍ地帯に広く分布している。

蝶の口吻になる部分の蛹の時の呼び名を下顎（かさい）と言い、本種の下顎はチャバネセセリ属でもっとも長くほぼ尾端に達する（福田晴夫・他、1984）とされている。この下顎長を、本県海岸産について調べたので報告する。

なお、調査に際し貴重なご意見を賜った野中　勝氏にお礼申し上げる。

《材料と方法》

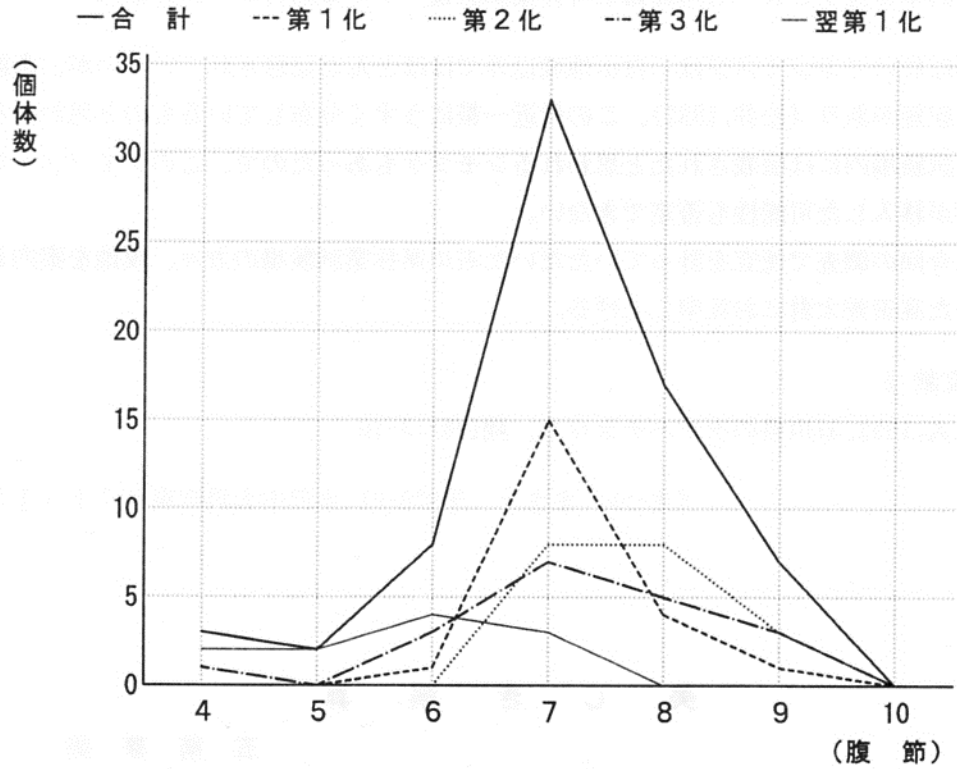
金沢市金石海岸には、チガヤを食草とした本種が分布している。ここから幼虫を採集し、自宅で蛹化させ、下顎長を調べた。幼虫採集は、９月から翌年９月までの１年間かけて行ない、主に終齢幼虫を採集した。飼育は、同地で採集したチガヤを植木鉢で栽培し、これを使って野外で行なった。下顎長は、下顎先端が腹節の何番目に達しているかを調べた。



図－１　ミヤマチャバネセセリの下顎と腹節

《結　果》

採集した幼虫は合計１０１頭だが、ネットで被わず飼育した結果７０頭の蛹を得た。これらの下顎先端位置を調べたところ、第４腹節から第９腹節にあり、最も多いのは第７腹節だった。これを、第１化(越冬蛹)、第２化、第３化、翌第１化(越冬蛹)別に図－２に示した。これによると、翌第１化は第６腹節に凸傾向を示し、それ以外は第７腹節に凸傾向を示している。



図－２　ミヤマチャバネセセリの下顎先端位置

《考　察》

福田晴夫・他(1984)によると、下顎先端部は尾端に達するとしているが、今回の結果では、第１０腹節に達する個体は無かった。また、下顎長の変異幅は大きく、先端は第４腹節から第９腹節にあり、最も多かったのは第７腹節だった。これは、福田晴夫・他で扱った個体群と今回扱った個体群の違いから生じたものと思われる。福田晴夫・他で扱った個体群が何処のものかは分からないが、この違いはクライン、地域変異、標高変異など、いろいろと考えられ、今後各地の個体群を調査する必要がある。

《参考文献》

福田晴夫・他,1984.原色日本蝶類生態図鑑(Ⅳ).pp.373.保育社

《まつい まさと　〒920-01 金沢市大場町東８７１－１５》

鶴来町でホシミスジを確認

松　井　正　人

鶴来町の石川県林業試験場でホシミスジを確認した。前日に同地でムラサキシジミを採集した高田君と、試験場内郷土の森でムラサキシジミの調査をしている時に、コミスジに交じってホシミスジが飛んでいた。

1994年８月１３日　石川郡鶴来町林業試験場　１♀２頭目撃　松井正人

石川県に於いてホシミスジは、白山地域以外ではほとんど記録されていないが、金沢市日尾にも記録があり（松井,1992)、この付近一帯にうすく分布しているものと思われる。ただし、試験場内には植栽されたと思われるシモツケもあったので、このシモツケと共に幼虫や卵が移入した可能性も否定できない。

最後に今回の調査で便宜を計っていただいた石川県林業試験場の方々、現地を案内していただいた高田兼太君にお礼申し上げる。

《 参考文献 》

松井正人,1992.石川県のタテハチョウ３．翔(98):3-10.

《まつい まさと　〒920-01 金沢市大場町東８７１－１５》

美　し　き　誤　算

五　萌　夢　美

「パパったら、また出かけちゃうの。毎週毎週。もう、いやになっちゃう。お休みなんだもの、寝坊したいなって思っているのに、朝からバタバタ出て行くの。ひどいわよ。」

「家事も子育てもけっこう大変なんだもの。お休みくらいは夫にいたわってもらいたいと思ってはいけないの。」

聞き覚えのある夫たちは、世に多いのではないだろうか。言いたくは無いが、ついグチってしまう。かつて、思い込んでいた未来像。現実とのギャップはなんと大きな事か。

ひとりで閉じた世界を眺め、美しいと感じていた。そのことに気付いた時、何も見えていなかった自分に対して声をかける。「すべて、ひとりの思い過しだったね」と。客観的に見れば、滑稽なことだ。

一人相撲に痛い思いをしていても、また同じ誤りをおかしているような気がする。「夫は毎週少年に戻り、若い日のナイーブな心を取り戻して帰って来る」と。

美しき誤算。過去の誤算は見えても、現在の誤算は見えない。

ネジャラダムスの大予言

名前のないネコ

我輩はネコである。名前はまだない。ヤァ～先日の阪神大震災は、今思い出しても足がガタガタする程、怖かった。神戸に住む我輩の仲間も大変だったらしい。テレビや新聞報道では、「忠犬、主人を救う」とか「いつまでも主人を待つ犬」とか、犬が大きく取り上げられていた。猫にもなかなか忠猫な奴もいたのだが、どうも日頃の行動が謙虚だから目立たってないんだよなあ～。まぁいいか！

しかし、あのノストラダムスの予言も当りまくってきた様である。我輩も１９９９年までの４年間は、地球が大変化する事間違いないと予言するゾ！

ここ数年の人間社会を見ても、何か変！　米不足、低年齢の自殺、母子殺人、地下鉄サリン等々、数えあげたらきりがない程。倫理、秩序はバラバラで、理性、知性はどこへ行ったやら。我輩、猫の目から見ても猫の目の如く、よく変わっていると思うよ、この世の中。

そうそう、我輩とは仲の悪いあの「ネズミ」、あいつ達は賢いのか何なのか、数が増え過ぎると食料不足を本能で感じ、集団自殺に走るらしい。それで、ネズミ社会のバランスが保たれているらしいのだ。人間も動物、自然の摂理で本能的にそういう行動が起こっているのかもしれない。しかし、人間はどうも自分たちだけでは死ねないらしい。松本サリンにしても、かわいそうな仲間がいた。ネズミのように、他の社会には影響を与えないで欲しいんだよなあ。

自然界はなんとも不思議で、残酷なもの。ある種のクモの母親なんかは、自分で産んだ子に与える食料が、なんと自分自身の体なのだ。この子グモは、自分を産んでくれた母親と知ってか知らずか、目の前の母親を食い尽くす。クモの生態系では、自然の事らしい。カマキリは知っての通り、出産に備えて体力を蓄えるために、産まれてくる子の父親、我夫を食べ尽くす事もある。夫もまた、それが当然の如く我身を妻に捧げるのである。なんと自然の残酷さよ…。ゲンゴロウはゲンゴロウで、自分の仲間は仲間でありながら、またいつでも食料になりうるのだ。弱ってきたゲンゴロウは強いゲンゴロウに食べられる。これこそ弱肉強食の動物社会。誰も、そのゲンゴロウを責める事はできない。これは自然の摂理なのだ。

しかし、人間界は違うはず。我輩動物達にはない知性と理性が有るのだから、それなりの行動はとってもらいたいものだ。しかしその人間が、今や地球破壊の現況であり、憎っくきガンとなっている。ガンはもはや地球全体に蔓延し、衰える事を知らない。４年後にハルマゲドンがくるのか分からないが、人間は他の生物達と共存していく為にも、もっと我輩達猫の様に、謙虚に生きていくべきではないのかと切に思う。まぁ我輩、４年後は覚悟しているがね。

新しい虫界紳士録を作成中

木曜社は、前回の紳士録をふまえ、今回は広く虫の愛好家、研究者、その奥さん等々を対象に、新紳士録の編集を進めている。前回は約四百人、今回はざっと一千人の参加を見込んでいる。

姿を見せないギフチョウ

白峰のギフに会おうと、三年通っているが見もしない。どこぞの本に、一日数十頭採集などと載っていたのが夢のような話である。かつては日に一度は見かけたが、赤谷を避けているせいか、最近とんと姿を見ない。

指田氏ギフチョウにハマル

かつては市町村集めを鼻で笑っていた指田氏ではあるが、今や完全にハマッてしまった感がある。どうも高尾山とか竜門山の野外品を押さえているのが原因らしい。近々、みせびらかしの産地リストができあがる。

バケツトラップは警察さた

サリンだ異臭だと、やかましい昨今、バケツトラップの設置には躊躇してしまう。「おかしな所にバケツがぶら下がっている。近づくと異臭がする」等と、警察介入も在り得る話。困ったものだ。

みどりーと命名したものの

N氏は娘に「みどり」と名を付けたものの、将来何処へ嫁ぐのか心配でならない。林さんだけにはやりたくないと言うが、藤さん、桐島さん、久松さん、いったい何処が良いだろう。そう言えば、「つまきちゃん」もいたが、多田さんに嫁いじゃ親は泣くに泣けない。この気持ち分かってくれるかなあ。

石川県蛾類リストを作成中

リストを作ると、その直後は初記録が目白押しになる。甲虫リストの時は、年に二百種、連年で四百種が初記録として発表された。そこで次は蛾の番と、富沢氏はリスト作成に取り組み、六月中にはでき上がる。石川県昆虫総目録作りも二年目、それぞれのリストを作って、七千種目指して頑張ろう。

日本産野生生物目録昆虫編

この四月だか五月に、環境庁編の「日本産野生生物目録（昆虫編）」が出たが、最近の虫が載っていない。おかしいと思ったら、一九八九年に九大農学部から出た「昆虫総目録」と同「追加・訂正」のデータをそのまま使っている。あれから五年も経つのに。

県産カミキリリストが完成

井村会長執筆の「石川県のカミキリムシ科」が二六六種を発表して遂に完結した。早くも数種の出入りが取りだたされる中、一冊にまとめるべく奮闘している会長だが、十年余に渡って発表されたリストは表現がマチマチ。統一された増補改訂版の日の目は、はるか彼方か、すぐそこか。

例会の記録

四月六日（木）八時から城南管工二階にて開催。

時節柄、もっぱらギフチョウの話題に終始し、一番ギフ、山ギフ、連休ギフの話に盛り上がった。

参加は生田、指田、中西、細沼、吉村、松井、徳本、井村、高田の九人。高田君は、金沢駅から駆け付ける予定だったが、止ん事なき理由により、TEL参加となった。

例会の記録

五月十一日（木）八時から城南管工二階にて開催。

富沢氏から、日本鱗翅学会信越支部設立総会参加の呼びかけがあった。なんでも石川県は鱗翅学会員がとてつもなく少なく、動ける会員は氏と指田氏の二人ぐらいなので、学会員以外の参加もOKとのことだった。

参加は富沢、中西、指田、松井、細沼、江口、井村、高田、竹谷の九人。

会員の動きしゃばの動き

一番ギフはいつ飛ぶか

三月二十一日ポカポカ陽気。松田氏は、一番ギフを探して小松市へ。今にも飛びだしそうとカメラを構えていると、日だまりから日だまりへと、ふらふらした足取りの松井氏はやってきたが、ギフは飛ばなかった。

忙しい中にも虫心あり

生田氏、暮から「忙しい」の連発だったが、このところ若干の余裕が出てきたらしい。能登のクロコムラや、一番ギフに顔を出し、辰口ではしっかり一番ギフを確認している。頃は三月の二十四日なり。

キンジソウが咲いちゃった

またの名をスイゼンジナと言うキンジソウ、その花にはアサギマダラが良く集まる。この花で春のマーキングを狙っていた松井氏だったが、四月初めにみんな咲いてしまい、来年まで咲かないらしい。

夜に飛ぶ辺境のギフチョウ

多摩虫の主こと仁平氏と月曜に強い金沢氏、ギフチョウを追って金沢へ入る。現地では指田辺境部隊長が、自らも楽しむべく夜の御膳立を行ない、夜は楽しく更けていった。翌日は、目でたく竹藪のギフに出合えたものの、低温のせいか大歓迎には至らなかった。

蝶談会とは言うけれど

結成当時は、ほとんどが蝶屋だった。ところが、時の流れとともに、ほとんどが元蝶屋になってしまった。今でも蝶屋はいるが、実態はいろんな虫を対象にしている元蝶屋の集まり。これで蝶談会と名乗っていて良いのだろうか。頭に「ムカシ」がついてもおかしくない。

川北町史は市町村史の鏡

川北町史の自然・生活編が出た。これまでの市町村史では、昆虫編のほとんどが種名の羅列で、昆虫編すら無いものもある。もちろん、文献としては利用できない。ところが川北町史は文献として利用できるデータが掲載され、これからの市町村史としてのあるべき姿を示している。この鏡なるべき町史の昆虫編は、江口元章氏が担当している。

今風虫屋の連休はいかに！

中西氏はハワイ、江崎・高田チームは奄美、指田氏は東北、松井氏は能登、澤田氏は昼寝、嵯峨井氏は展翅、井村氏は家族サービスと皆さんそれなりの連休でした。さて、この中で虫を採っていたのは誰でしょう。

翔 NO.114

1995年6月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

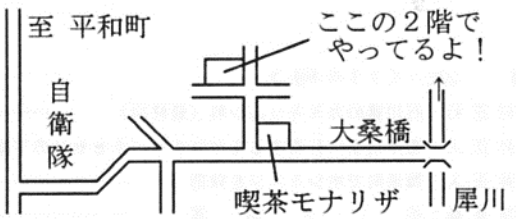
〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜8時から

TEL参加もOKです(0762-44-3318)



目　次（114号）

井村正行：石川県のカミキリムシ科（最終回）…… 1
松井正人：海岸地域に分布するミヤマチャバネセセリの下顎長 … 7
松井正人：鶴来町でホシミスジを確認 …… 9
五萌夢美：美　し　き　誤　算 …… 9
名前のないネコ：ネコジャラダムスの大予言 ……10
編　集　部：会員の動き・しゃばの動き ……12